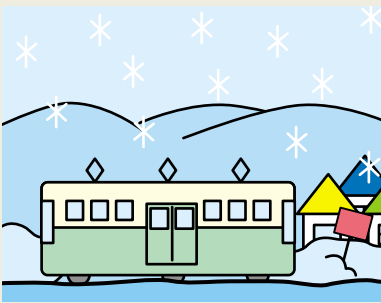


見直される市電の長所

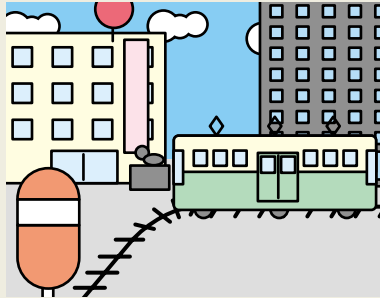
交通面の混雑緩和

バスに比べて輸送効率が高く、都心部での速度や冬期の定時性にも優れている



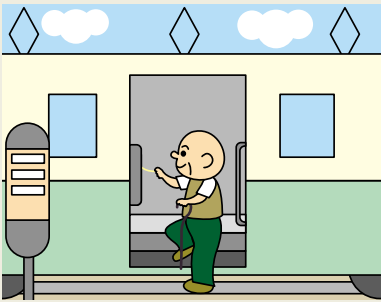
まちづくりへの貢献

街並みとの調和が図りやすく、デザイン化、シンボル化により、個性的なまちづくりができる



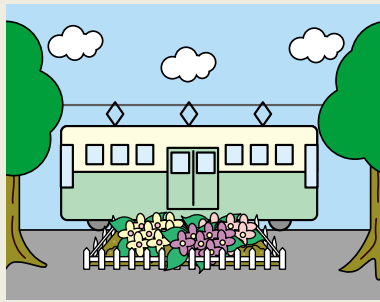
高齢者に優しい

路面から直接乗降できる



環境に優しい

動力が電気で、二酸化炭素などの大気汚染物質の排出が少ない



今、市電が注目されています！

札幌の市電は、戦前から市民の足として利用されてきました。その後、冬季オリンピック前年の昭和四十六年から、地下鉄の開業や自動車の普及により徐々に縮小され、現在は区内に八・五キロの路線が残るだけとな

っています。一時は存続さえも危ぶまれた市電ですが、近年、『人や環境に優しい乗り物』として見直され、再び注目を浴びています。速さや手軽さなどでは、自動車に及ばない点がありますが、今後、豊かな都市空間を築くに当たり、自動車とは違う魅力を認め、新たな活用を探る動きが出てきています。



もっと市電を良くするには

いくら市電が注目されているとはいえ、利用者を増やすためには、皆さんが今、市電に感じている不便さを解消していかなければなりません。よくいわれるのが、市電のスピードは遅いという点です。速度としては、都心部を走るバスよりは速いのですが、地下鉄や自動車と比べるとやはり劣ります。また、定員乗客数が少ないため朝のラッシュ時などに乗り残しが見られる、ほかの交通機関との連絡が良くない、架線が地上にあるため都市景観を損ねている、電停が狭いなど、いくつか課題が挙げられています。

このような意見を基に、平成十年度には、学識経験者、関係機関、事業者、一般市民からなる委員会を設置し、市電の既存路線の機能向上策についてさまざまな角度から検討しました（下表を参照）。

ほかに、現路線のループ化（環状化）、路線の延伸なども一つの案として検討されています。

しかし、これらを実現すると新たな費用が必要となり、市民の負担増にもつながります。そのため、その費用に見合った効果があるかどうかを、ほかの交通機関に与える影響や、まちづくりとの兼ね合いなどと併せて検討しなければなりません。

現状の問題点	機能向上策	概要と導入の効果	課題
速度の向上	優先信号システム	電車の青信号時間を延長 電車が止まらずに速く走れる	交差する側の青信号時間が減る
	料金収受システム	非接触式のカードリーダー方式を導入 降車時間が短くなる	地下鉄、バスを含めた市全体のシステム整備が必要
都市景観の向上	架線の整備	道路上の架線の張り方を工夫 景観が良くなる	方法によっては軌道幅を広げる必要がある
乗り降りが不自由な方への対応	低床車両	床の高さが低い車両を導入 高齢者などが利用しやすい	車いすでの利用を可能とするためには、昇降装置、電停の広さについて考慮する必要がある